



## オランダ人技師ムルデルが歩いた道

11月7日(金)、利根運河協議会と流山市との連携により利根運河フットパスウォーキングが開催されました。さわやかな秋晴れの中、20名の参加者が利根運河周辺の歴史文化と自然を巡りました。

午前中は、明治時代の地図を片手に、利根運河開削の設計・工事監督であったオランダ人土木技師ムルデルの足跡をたどりました。利根運河が造られた当時の古写真や文書など、ガイドの新保さんが収集された豊富な資料を用いながらのお話には、参加者のみなさんは熱心に耳を傾け、メモをとったり、石造物などの写真を撮ったりしました。

昔の地図に記されている社寺のほとんどが今はその場所にありませんが、参加者の中には社寺があった当時のことを覚えている方がいて、昔の面影が残る地形を前に、当時の話で盛り上がりました。



### ガイド紹介



**新保國弘さん**  
東葛自然と文化研究所 所長

▲ 清浄寺(ヨウジ ヨウジ)跡。今は墓地のみが残る。(写真奥) ▲ 浅間神社。祠の中に稲荷大神(昔は社あり)と山神宮。



▲ 個人宅にある諏訪大神。 ▲ 諏訪社旧位置。 ▲ 大飢饉の時に建てた大六天。 ▲ ムルデルが寄宿した矢口家。



▲ 庚申山に並ぶ11基の庚申塔は文化、文政、天保の建立。右から6基目に寺名「浄円坊」を発見。



▲ 青面金剛(天明4年建立)。今も花や菓子が供えられ、大切にされている。



▲ 石井家長屋門。



▲ 不動坊の街道社(明治8年建立)左面に旧小字名「平川内坪」を発見。



▲ 利根運河。



▲ 運河大師五十番。利根運河会社支配人によって観光振興のために作られた。



利根運河周辺の歴史・地形ウォークを終え、午後は野田市の江川地区にある「こうのとりの里」で、施設の見学と江川地区に残る歴史遺産を散策しました。「こうのとりの里」は野田市のコウノトリ飼育施設で、この地で生まれた4羽を含む6羽のコウノトリを飼育しています。

観察棟ではケージ内で飼育されているコウノトリをガラス越しに見ながら飼育員さんのお話を伺いました。みなさん初めて見るコウノトリに興味津々で、「餌としてドジョウなどの他に野菜はあげるの?」「オスとメスはどうやって見分けるの?」など沢山の質問が次々と飛び出しました。ケージの中のコウノトリは大人しそうに見えましたが見学者を警戒しているだけで、本来は気性が荒く、お互いの相性が悪い場合はつつき殺してしまうこともあるそうで、「赤ちゃんを運んでくる」という言い伝えで親しまれているコウノトリの、実際の生態の話に驚きの声が上がりました。

こうのとりの里では今年生まれた2羽の姉妹の名前を募集しており（現在は応募終了しています）、施設内にある応募箱に投稿される方もいました。



江川地区で生まれ育ったコウノトリの兄妹



ガラス窓越しにコウノトリを観察

施設の見学後は、午前引き続き新保さんの案内で江川地区を散策しました。新保さんは江川地区のビオトープにも携わっており、この地にまつわる歴史のほか、江川地区で繁殖する猛禽類や、ビオトープとして整備することになった経緯などについてお話いただきました。この日はちょうど、オオタカが飛んでいる姿を見ることができました。



新保さんによる江川地区の解説。



昭和12年竣工の栗山の堰。何故か、この時代では珍しいローマ字で刻まれている。



下三ヶ尾の三叉路に建つ道しるべ(安政4年建立)左面に「すわ 流山 江戸道」とあり。

## 参加者からの感想・意見（アンケート結果より）

今回のウォーキングコースについてほとんどの方が「満足」または「やや満足」と回答され、「是非また参加してみたい」とのご感想もいただきました。参加者の多くが利根運河を利用したことがあると回答されましたが、周辺の歴史文化やコウノトリの取り組みについては今回のイベントで初めて知った方もいて、「知らなかったことを知ることができて良かった」というご感想がありました。「広報の他、駅の案内を増やしてほしい」などのご要望もいただきました。アンケートの結果は今後のフットパス整備やイベント企画の参考にさせていただきます。



利根運河協議会では今後も多くの方に利根運河の魅力を知っていただくためのイベント企画を行ってまいります。協議会の活動等について詳しく知りたい方は、利根運河エコパークホームページをご覧ください。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00183.html>